

岩手県立大学生対象「震災を学び、防災を考える現地学修」を行いました。

2024年11月9日 開催

キーワード：防災教育

開催場所：岩手県釜石市、岩手県遠野市

岩手県立大学防災復興支援センターでは、人材育成の一環として本学学生を対象に「震災を学び、防災を考える現地学修」を2024年11月9日に開催しました。この取組は昨年度から行っており、今年度は学生団体FROMメンバー15名を含む26名の学生が、釜石市にある「いのちをつなぐ未来館」及び遠野市にある「遠野市後方支援資料館」を訪れました。

いのちをつなぐ未来館では、午前に語り部による館内展示の解説・見学の後、「釜石の出来事」として知られる東日本大震災当時の釜石東中学校・鶴住居小学校の生徒の方々が実際に津波からの避難に使用した避難経路を歩き、当時中学2年生だったという語り部職員の方からのリアルな体験をお話いただきました。

午後からは、いのちをつなぐ未来館の体験企画である防災リュックワークショップを受講しました。同WSでは、与えられた様々な状況下で優先度の高い防災グッズを選択し、その選択理由をグループ毎に発表しました。他のグループの考え方や優先順位に差があり、各学生の災害への視点を広げるとともに、自身の備えに役立てたいという声があがりました。

遠野市後方支援資料館では、東日本大震災当時、遠野市が各支援団体の集結する後方支援拠点として機能した際の記録資料を見学し、後方支援拠点整備と事前準備の重要性について大いに学ぶことができました。

防災復興支援センターは、今後も、地域の防災リーダーを輩出すべく、人材育成に取り組んでまいります。



写真1 参加学生の集合写真（うのすまいとモスにて）



写真 2～7 館内見学、津波避難路体験及び防災リュックワークショップ  
(いのちをつなぐ未来館にて)



写真 8, 9 遠野市後方支援資料館にて